

復興応援団だより

公営住宅にサーカスがやってきた!

8月16日、日本ホスピタル・クラウン教会による「小さなテントサーカス」が、多賀城市桜木地区災害公営住宅で行なわれました。復興応援団のスタッフも、テントの設営やかき氷などの屋台をお手伝いさせていただきました。

サーカスではバルーン・大会などで賑わいました。サーカスと夏祭り、テントサーカスと夏祭り、



テントサーカスの様子↑

共にとっても多くの人が集まり、公営住宅のみなさんが一体となった、笑いの絶えない楽しい一日になりました。(東北大・丹羽郁也)

「アナゴ釣り体験」モニター

8月29・30日に、金比羅丸・高橋直哉さんが観光客向けの新サーピスとして仕掛けていく予定である「アナゴ釣り体験」の初回モニターに復興応援団スタッフが参加してきました。

モニターは、いつもお世話になっている金比羅丸の高橋直哉さんのもとで行われました。このアナゴ釣りでは、「ハモ胴」と呼ばれる仕掛けを使い、アナゴを呼び寄せました。アナゴを呼び寄せ

このモニターは、今回を含め全3回実施予定です。参加者の感想や意見を基に、新サーピスの立ち上げにつなげます。南三陸町の海の魅力を伝える新たな一ページが生まれて、さらにこの町のファンが増えることを願っています。

(東北大・鈴木励)

←釣れたアナゴ



2015.10/N041
発行元：
一般社団法人
復興応援団
代表：佐野哲史
広報チーム
0226-25-9897

復興応援団とは？

私たちは、「地元の方が主役の復興」を目指し、主に南三陸町と多賀城市で活動しています。南三陸町では、地元の復興の担い手の元へ全国からボランティアを派遣。復興のお手伝いを通じて南三陸の魅力に触れてもらい、中長期的に復興を支える「ファン」になってもらう取り組みをしています。多賀城市では、2012年4月より「復興応援団だより」を仮設住宅全戸にお届けするなど、住民のみなさんが中心となったコミュニティづくりを応援し



←南三陸町で震災の様子を学ぶ参加者

→多賀城市で復興応援団だよりを配布するスタッフ



復興応援団でのサークル「もこもこ」で活動している2児の象に残りました。は、南三陸・ホコもこ」で活動している2児の象に残りました。テル観洋にインしている2児の象に残りました。京の学生を対象にご講演いただきました。に、地元の復興だきました。の担い手の方に、もこもこでは、講演していただく子ども連れでもお勤めいただきお仕事をしています。お仕講演していただく子ども連れでもお勤めいただきお仕事をしています。お仕く学びの場・楽しんでサークルを見ていると、「復興応援塾」ル活動を行って子育てと仕事をを、2013年をしています。「南三陸町で両立さ2月以来3年間三陸町は子育てせることの大変に渡って70回をするには大変さがわかり、頭以上実施していきな環境ですが、が下がります。ます。

8月14日は、もこもこの仲間である先輩ママ (東北大・加藤諒一)

復興応援塾

南三陸町のさんからのアドママと子どもが、不安な子育ての助けになりました。お話を聞いてください。